

2 参加型臨地実習ガイドラインの「大学・実習施設の協働体制」の骨子として、妥当性と実現可能性について、あなたの考えに最も近い数字を選んでください。	【妥当性】									【実現可能性】								
	完全にある 妥当で				どちらとも いえない				全く妥当 ではない	確実に実現 可能である				どちらとも いえない			全く実現 不可能である	
5 大学はディプロマポリシー(DP)を設定し、卒業時点のDPの到達度を評価する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
6 大学は看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)に基づき、卒業時点の資質・能力の到達度を評価する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
7 大学は、看護学生が全ての臨地実習を終了した時点において、到達すべき資質・能力を明示して評価する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
8 大学は、臨地実習ごとに実習要項を整備する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
9 毎年臨地実習前に大学と臨地実習施設が参集し、実習調整会議を開催し調整する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
10 大学が臨地実習指導者の研修会を開催する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
11 大学が臨地実習指導者に臨地教授・臨地講師等を付与して協働する体制を整える。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
12 大学は、実習施設の臨地実習指導者の確保について実習施設代表者と協働して検討する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
13 大学は、実習施設の実習指導者の質を保証する方法について実習施設代表者と協働して検討する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
14 参加型臨地実習は、実習施設管理者のサポートと組織的支援、実習施設と大学の連携、パートナーシップ、多職種との協働機会が基盤である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
15 参加型臨地実習は、中核構造として大学―施設―指導者―学生を軸とする協働基盤が必要である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
16 大学と実習施設の連携・協力体制を構築するために、適時の綿密な意見交換が必要である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
17 大学と実習施設の連携・協力体制には、学生の実習へのレディネスの保証と共有が前提となる。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
18 大学と実習施設の教育連携には、臨地実習指導者を育成し・人員を確保する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
19 大学と実習施設の教育連携には、臨床と大学教育への相互参画、人事交流を行う。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
20 大学と実習施設の教育連携には基礎教育と現任教育の連続性を図る。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1

3 参加型臨地実習ガイドラインの「臨地実習前の学生のレディネス保証」の骨子として、妥当性と実現可能性について、あなたの考えに最も近い数字を選んでください。	【妥当性】									【実現可能性】								
	完全にある妥当で				どちらともいえない				全く妥当ではない	確実に実現可能である				どちらともいえない			全く実現不可能である	
21 大学は、看護学生が臨地実習前に到達すべき資質・能力を明示して評価する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
22 大学は、看護学生の資質・能力の到達度を評価するために、筆記による試験を実施する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
23 大学は、看護学生の資質・能力を評価するために、CBTを実施する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
24 大学は、看護学生の資質・能力を評価するために、実技試験を実施する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
25 大学は、看護学生の資質・能力を評価するために、OSCEを実施する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
26 参加型臨地実習の実現に、看護学生の学習への積極的な姿勢、自己効力感を高めることが必要である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
27 参加型臨地実習の実現に、学年が上がるにつれた経験の蓄積、ピア学習の活用が必要である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
28 CBT/OSCE等による到達度確認・能力保証が参加型臨地実習導入の前提条件である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
29 看護実践能力が保証されると参加型臨地実習へ接続することができる。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
30 CBTとOSCEは、実習前の最低限の能力を確認するものとする。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1

4 参加型臨地実習ガイドラインの「学生が実施可能な看護行為と責任範囲」の骨子として、妥当性と実現可能性について、あなたの考えに最も近い数字を選んでください。	【妥当性】									【実現可能性】								
	完全にある 妥当で				どちらともいえない				全く妥当ではない	確実に実現可能である				どちらともいえない			全く実現不可能である	
31 看護学実習ガイドライン(2020年)を活用する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
32 学生の看護実践能力について、単位取得科目を学生の知識・技術の到達度として実習施設と共有する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
33 学生の看護実践能力について、CBT、OSCEなどによる到達度評価結果を実習施設と共有する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
34 違法性阻却がなされた看護行為(療養上の世話・診療の補助としての医行為)の実施について、大学の判断を説明する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
35 学生が行うすべての看護行為について、到達度の合意形成の体制について実習施設と協働して検討する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
36 学生が行うすべての看護行為について、委託の程度の合意形成の体制について実習施設と協働して検討する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1

5 参加型臨地実習ガイドラインの「臨地における指導体制」の骨子として、妥当性と実現可能性について、あなたの考えに最も近い数字を選んでください。	【妥当性】									【実現可能性】								
	完全 である 妥当				ど ち ら と も い え な い				全 く 妥 当 で は な い	確 実 に 実 現 可 能				ど ち ら と も い え な い				全 く 実 現 可 能
37 学生6－7名に1人の教員と臨地実習指導者を臨地実習施設に配置する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
38 各看護学領域の教員と各部署の看護職が臨地実習指導を担当する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
39 実習指導教員と実習指導者の役割・責任の所在を明確化し、合意し周知する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
40 大学は、実習要項を用いて実習施設と学生の指導方法等を調整する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
41 学生が実習施設への帰属感を感じられる、歓迎的雰囲気、スタッフ全員が学生を受け入れる組織文化を形成する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
42 参加型臨地実習の意義・目的・目標・方法・内容・評価に関する情報を共有して理解する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
43 実習指導者1名の固定配置が参加型臨地実習の実践準備性を高める。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
44 1実習に複数の実習指導者を交代して配置することは、実習を分断する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
45 同一施設での反復の実習、継続的・一貫した実習指導者を配置する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1

6 参加型臨地実習ガイドラインの「実習指導者の質保証」の骨子として、妥当性と実現可能性について、あなたの考えに最も近い数字を選んでください。	【妥当性】									【実現可能性】								
	完全 ある 妥当 で				ど ち ら と も い え な い				全 く 妥 当 で は な い	確 実 に 実 現 可 能				ど ち ら と も い え な い				全 く 実 現 可 能
46 採用時、実習指導教員/臨地実習指導者としての資質・能力を臨床経験の内容と年数で評価する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
47 実習指導教員/臨地実習指導者となるための研修を設定する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
48 実習指導教員/臨地実習指導者としての資質・能力を実習指導場面を直接観察して評価する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
49 実習指導教員に対する大学内の評価制度がある。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
50 臨地実習指導者に対する施設内の評価制度がある。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
51 実習指導教員/臨地実習指導者の指導方法を学生が評価する制度がある。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
52 実習指導教員は実習開始前に当該実習施設での研修を実施する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
53 各領域責任教授が実習施設で実習指導教員を指導する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
54 実習施設の教育担当責任者が実習施設で臨地実習指導者を指導する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
55 参加型臨地実習のブレ・ポストカンファレンス・省察する機会・即時フィードバック・ピア学習が学習効果を高める。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
56 学生の参加の程度を「見学・補助」から段階的に直接ケアへ拡大する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
57 学年・学習目標・学生の能力に応じて個別的に「委任の判断」を行う。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
58 臨地実習指導者の専門的能力と指導への動機づけが必要である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
59 実習指導者研修へ派遣し、臨地実習指導者を育成する必要がある。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
60 実習指導教員と臨地実習指導者の教育的判断力、評価能力、学生の成長を支える関わりの育成が重要である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
61 学生の能力が実習の場によって異なる形で発揮されることがあるため、評価は不足の指摘に偏らず、長所を見出し成長を促す観点を含める。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1

7 参加型臨地実習ガイドラインの「患者への説明と同意取得」の骨子として、妥当性と実現可能性について、あなたの考えに最も近い数字を選んでください。	【妥当性】									【実現可能性】								
	完全 ある 妥当 で				ど ち ら と も い え な い				全 く 妥 当 で は な い	確 実 に 実 現 可 能				ど ち ら と も い え な い				全 く 実 現 可 能
62 同意書は大学が準備し、大学の責任で患者へ説明し同意を受ける。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
63 同意書は実習施設が準備し、実習施設の責任で患者へ説明し同意を受ける。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
64 同意書には患者、看護学生及び実習指導教員が署名する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
65 同意書には患者、看護学生、実習指導教員及び臨地実習指導者が署名する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
66 患者・家族への説明と同意、患者への協力要請は、参加型臨地実習の実装上の中核課題である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
67 説明文書・同意書は標準化して簡潔に運用し、国民への理解促進と協力要請を努力する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1

8 参加型臨地実習ガイドラインの「法的・倫理的責任と安全管理」の骨子として、妥当性と実現可能性について、あなたの考えに最も近い数字を選んでください。	【妥当性】									【実現可能性】								
	完全 にある 妥当で				ど ち ら と も い え な い				全 く 妥 当 で は な い	確 実 に 実 現 可 能 な こ と と 思 わ れ る				ど ち ら と も い え な い			全 く 妥 当 で は な い	
68 医療安全・患者安全の担保が参加型臨地実習の必須構成要素である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
69 学生の能力確認後に段階的に委託し、実習指導者の監督下でケア実施を行う。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
70 患者安全の担保について、実習前オリエンテーションの充実が重要である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
71 臨地実習指導者が、学生の看護行為（診療の補助としての医行為）の指導責任を有する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
72 臨地実習指導者が、学生の看護行為（療養上の世話）の指導責任を有する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
73 実習指導教員が、学生の看護行為（診療の補助としての医行為）の指導責任を有する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
74 実習指導教員が、学生の看護行為（療養上の世話）の指導責任を有する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
75 法的・倫理的責任のガイドラインを整備する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
76 臨地実習指導者が保健師助産師看護師法第31条の違法性が阻却される条件についての知識を有する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
77 実習指導教員が保健師助産師看護師法第31条の違法性が阻却される条件についての知識を有する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
78 臨地実習指導者が保健師助産師看護師法第31条の違法性が阻却される看護行為についての知識を有する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
79 実習指導教員が保健師助産師看護師法第31条の違法性が阻却される看護行為についての知識を有する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
80 参加型臨地実習を実現させるためには、保健師助産師看護師法第31条について改正する必要がある。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
81 患者安全を担保するため、学生には誠実な報告・相談、感染防御、安全ルール遵守、对患者・対職員コミュニケーション、主体的学習、基本的知識が求められる。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
82 大学と実習施設の間で、安全に対する考え方、インシデント発生時の対応、学生に経験させる範囲、評価基準を共有することが不可欠である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1

9 参加型臨地実習ガイドラインの「臨地実習における評価とフィードバック」の骨子として、妥当性と実現可能性について、あなたの考えに最も近い数字を選んでください。	【妥当性】									【実現可能性】								
	完全にある妥当で				どちらともいえない				全く妥当ではない	確実に実現可能である				どちらともいえない			全く実現不可	
83 臨地実習評価に関する大学の方針があり、各科目担当教員が相互に調整して評価項目を設定する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
84 各実習科目の実習要項には到達すべき資質・能力が明示され、それらを評価項目として設定する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
85 評価項目は看護過程の各段階における達成度と態度を行動目標として設定する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
86 全ての評価項目に共通する到達度の基準(例: 見学、指導の下に実施など)を明示する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
87 臨地実習指導者の意見を踏まえ、実習指導教員が評価を行う。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
88 臨地実習指導者が評価を行い、その結果を実習指導教員が最終的に確定する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
89 実習の中間時には形成的評価により学生に到達状況を示し、終了時に総括的評価を行う。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
90 臨地実習における直接観察を通じて到達度を評価する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
91 OSCEのみならず、臨地実習中の直接観察評価、ポートフォリオ、省察、フィードバック、多面的評価などと組み合わせて評価する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
92 臨地実習の学生との面接を通じて到達度を評価する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1

10 参加型臨地実習ガイドラインの「人的・時間的・財政的支援」の骨子として、妥当性と実現可能性について、あなたの考えに最も近い数字を選んでください。	【妥当性】									【実現可能性】									
	完全にある妥当である	どちらともいえない								全く妥当ではない	確実な実現可能である	どちらともいえない							
93 国・自治体や看護系団体レベルで参加型臨地実習を支える制度を整備する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1		9	8	7	6	5	4	3	2	1
94 参加型臨地実習を支える制度づくりとして、実習指導者の処遇やインセンティブを保証する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1		9	8	7	6	5	4	3	2	1
95 全国規模で実装するためには、財政的支援を含む体制整備が必要である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1		9	8	7	6	5	4	3	2	1
96 参加型臨地実習に伴う臨地現場の業務負担と人員配置が課題である。	9	8	7	6	5	4	3	2	1		9	8	7	6	5	4	3	2	1
97 指導者・評価者教育、施設要件、評価の標準化、実習中の継続的記録・ポートフォリオなど体制を整備する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1		9	8	7	6	5	4	3	2	1

11 参加型臨地実習ガイドラインの「看護学士課程教育の質保証」の骨子として、妥当性と実現可能性について、あなたの考えに最も近い数字を選んでください。	【妥当性】									【実現可能性】								
	完全 ある 妥当で				ど ち ら と も い え な い				全 く 妥 当 で は な い	確 実 に 実 現 可 能				ど ち ら と も い え な い			全 く 実 現 不 可 能	
98 大学は、教育の内部質保証のシステムをホームページにて情報公開する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
99 大学は、教育の内部質保証のシステムを毎年継続して点検・評価する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
100 大学は、教育の内部質保証を実施するための委員会がある。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
101 大学は、教育の内部質保証と認証評価について全教員の役割を決めて取り組む。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
102 大学は、学修成果のデータを教学IR部門で分析し、教育の改善に活用する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
103 大学は、教学マネジメントとして、FD・SD研修を毎年計画的に実施する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
104 大学は、教育成果を評価する方法について、アセスメントプランとしてホームページに情報公開する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
105 大学は、学生が到達すべきディプロマポリシー・資質能力を教授する教科目を示した「カリキュラムマップ」を学生に明示する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
106 大学は、教科目について教授の順序性を示す「カリキュラムツリー」を学生に明示する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
107 大学は、科目の成績とは別に、資質・能力の到達状況をレーダーチャートなどで示す「ディプロマ・サブリメント」を発行する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1
108 大学は、各学生の学修履歴と成果の体系的な蓄積と省察できるシステムである「学修ポートフォリオ」を活用する。	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9	8	7	6	5	4	3	2	1

質問Ⅱ 参加型臨地実習ガイドラインの全体に関する以下の意見について、皆様のご意見及び好事例について自由に記述してください。

1 実習施設の確保、人的資源、安全管理、心理的安全性、患者・利用者への説明と同意、インシデント対応を具体項目として整理する。

【ご意見】

【好事例】

2 大学と実習施設の役割分担、実習要項の共有、評価基準の共有、学生の到達度情報の共有、定期的なフィードバックの仕組みを入れる。

【ご意見】

【好事例】

3 臨地実習指導者・教員・評価者に対する研修、FD・SD、評価基準のすり合わせ、評価者間信頼性への配慮を位置づける。

【ご意見】

【好事例】

4 Workplace based assessment 評価、直接観察、ポートフォリオ、省察、フィードバック、多面的評価を、OSCEとは異なる役割を持つ評価方法として整理する。

【ご意見】

【好事例】

5 全国共通で保証すべき最低水準と、各大学・各施設の文脈に応じた運用を区別し、画一化しすぎない設計にする。

【ご意見】

【好事例】

6 実習を受け入れることが、施設の教育的機能、人材育成、組織学習につながることを明確にし、受入れ側の納得感を高める。

【ご意見】

【好事例】